



東小学校だより

木 洩 れ 陽

令和4年2月4日 No.11

文責 校長 瀨砂一徹

あっという間に1月が終わり2月を迎えました。新型コロナウイルス・オミクロン株の感染状況は、まだまだ終わりが見えません。現状では、いつ、誰が感染しても不思議ではありません。今後とも、各自ができる範囲で予防に気を付けて過ごしていきましょう。

さて、昨日は節分、そして今日は立春と、いよいよ春の足音が近づいてきました。まだまだ寒い日は訪れることと思いますが、日脚も伸び、学校の花壇では次第に春の花々が彩りを添えております。本年度、子どもたちが学校に登校する日数も30日余りとなり、この一年のまとめを意識しながら日々過ごしていきたいと考えております。

【「助数詞」を大切にする】

私たちは何かを数える際、無意識のうちに“助数詞”を用います。よく使われるものに「個」や「枚」、「台」、「本」などがすぐに思いつくのではないのでしょうか。これらは、いろいろな物を数えるときに使える万能タイプです。しかし、なかには特別なものもあります。例えば豆腐を数えるときの「丁」、箸を数えるときの「膳」、家を数えるときの「軒や戸や棟」、山を数えるときの「座」などは、個別に覚えておかないととっさに言えません。

この助数詞は日本や中国など、稲作文化が発達した地域に数多くあることが分かっています。我が国では約500あると言われておりますから、全てを覚えることは難しいでしょう。しかし、この助数詞があることによって、私たちはその数える対象のイメージ（量感）を瞬時につかんでいるのかもしれない。助数詞は複雑でやっかいだと感じるときもありますが、大切にしたい私たちの言葉だと思っています。

1月末に久しぶりの委員会活動がありました。栽培委員会の子供たちは寄せ植えをしていました。現在、南校舎の犬走り部分で温かな日差しを浴びて育っています。

よく見ればなずな花咲く垣根かな

松尾芭蕉

